

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 13年4月 ～市場予想を上回り、増産ペースが加速

経済調査部門 経済調査室長 斎藤 太郎

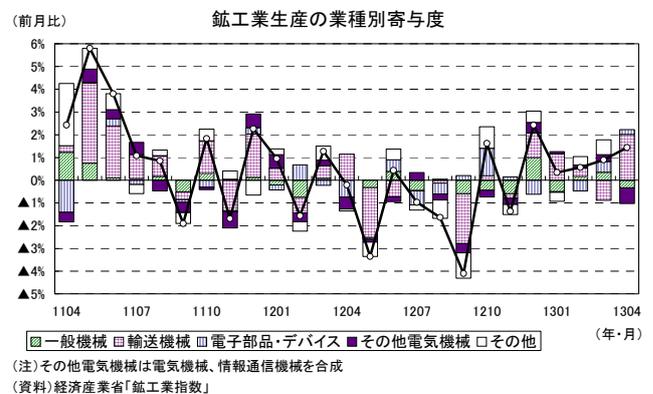
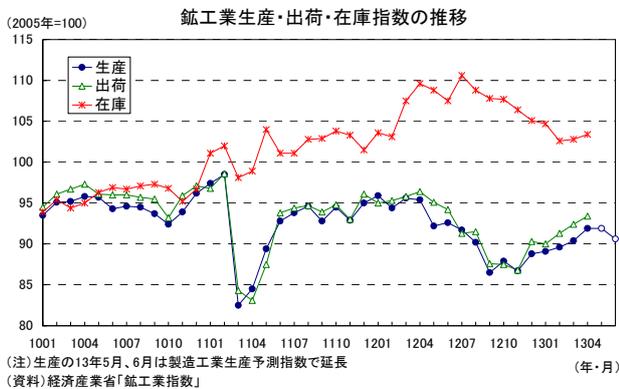
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 生産の伸びは市場予想を大きく上回る

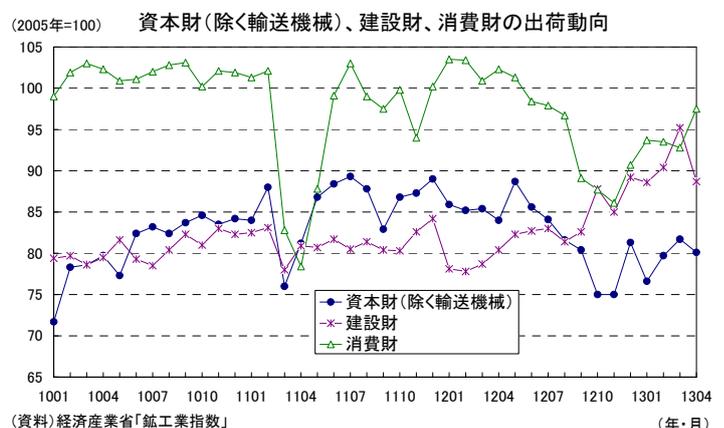
経済産業省が5月31日に公表した鉱工業指数によると、13年4月の鉱工業生産指数は前月比1.7%と5ヵ月連続の上昇となり、事前の市場予想(QUICK集計:前月比0.5%、当社予想は同1.0%)を大きく上回った。出荷指数は前月比1.1%と3ヵ月連続の上昇、在庫指数は前月比0.6%と2ヵ月連続の上昇となった。

4月の生産を業種別に見ると、情報通信機械は前月比▲20.5%と大きく落ち込んだが、輸出、国内販売の好調を受けて輸送機械が前月比11.8%の高い伸びとなったほか、電子部品・デバイス(前月比2.3%)、精密機械(同14.6%)なども好調だった。

速報段階で公表される16業種中、12業種が前月比で上昇、4業種が低下した。



財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷(除く輸送機械)は13年1-3月期の前期比2.9%の後、4月は前月比▲2.0%となった。また、建設投資の一致指標である建設財出荷は13年1-3月期の前期比4.7%の後、4月は前月比▲6.8%となった。GDP統計の設備投資は12年1-3月期から13年1-3月期まで5四半期連続で減少した。現時点では、4-6月期の設備投資は前



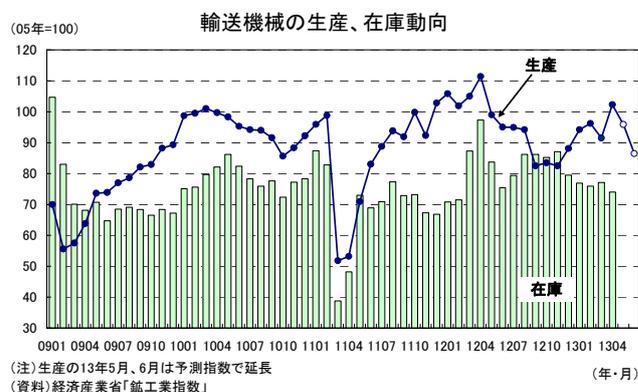
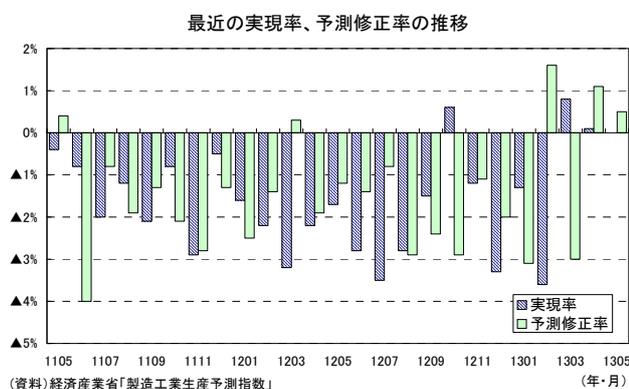
期比でプラスに転じると予想しているが、本格回復までには時間がかかるだろう。

消費財出荷指数は13年1-3月期の前期比5.8%の後、4月は前月比5.1%となった。非耐久消費財は前月比▲0.8%（1-3月期：同▲0.6%）と小幅な減少となったが、自動車販売の好調を主因として耐久消費財が前月比7.6%（1-3月期：同12.8%）の高い伸びとなった。13年1-3月期のGDP統計の個人消費は前期比0.9%の高い伸びとなったが、4-6月期も堅調を維持する可能性が高い。

2. 生産計画が2ヵ月連続で上方修正

製造工業生産予測指数は、13年5月が前月比0.0%、6月が同▲1.4%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（4月）、予測修正率（5月）はそれぞれ0.1%、0.5%となり、ともに2ヵ月連続のプラスとなった。実現率、予測修正率が2ヵ月続けてプラスになったことは東日本大震災以降では初となる。生産計画が下方修正される傾向に歯止めがかかったことは明るい材料だ。

その一方で、再び生産の牽引役となりつつあった輸送機械が5月（前月比▲6.3%）、6月（同▲9.8%）と大幅減産計画となっていることは不安材料と言える。



13年4月の生産指数を5月、6月の予測指数で先延ばしすると、13年4-6月期は前期比2.0%の上昇となり、1-3月期の同2.2%とほぼ同じ伸びとなる。ただし、鉱工業指数は6/18に公表される4月確報分から2010年基準への切替えが行われることに伴い、過去の計数が遡及改定され、季節パターンも大きく修正される可能性があることには留意が必要だ。